

(5) 本時の展開

時刻	No. 学習活動, ○活動内容, ・留意点や児童の反応等, ◇教科面の支援, ◆自立活動面の支援, ☆評価				
	A	B	C	D	E
13:20	<p>○見通しがもてるように, 学習の流れを示した掲示と本時の学習メニューを確認する。 ○各学年の問題・めあてをつかむ。 ・事前に買いに行くお菓子を選ばせておく。</p>				
			<p>全体のめあて パーティーの準備をしよう。</p>	<p>3年生 1 プリント 2 もん題 3 めあて 4 考える 一人て→みんなで 5 まとめ 6 練習もん題 7 ふり返り</p>	<p>4年生 1 プリント 2 もん題 3 めあて 4 考える 一人て→みんなで 5 まとめ 6 練習もん題 7 ふり返り</p>
					<p>6年生 1 もん題 2 めあて 3 考える ①比を使って計算 ②図を使ってたしかめ 4 まとめ 5 練習もん題 6 ふり返り</p>
13:23	<p>1. 既習事項の確認 ○プリント学習を行う。 ・直径の意味 (円の中心を通り, 円の周りから周りまで引いた直線), 直径の長さは, 半径の長さの2倍であるといった円と直径の関係, 円の作図などプリントを行う。 ・答えを用意しておき, 答え合わせを各自で行う。</p>	<p>1. 既習事項の確認 ○プリント学習を行う。 ・乗数, 被乗数の求め方や乗法のきまりの計算, 線分図で表されたことを言葉の式で表す問題, 文章題から言葉の式に表す問題などをなどプリントを行う。 ・答えを用意しておき, 答え合わせを各自で行う。</p>	<p>1. 既習事項の確認 ○プリント学習を行う。 ・乗数, 被乗数の求め方や乗法のきまりの計算, 線分図で表されたことを言葉の式で表す問題, 文章題から言葉の式に表す問題などをなどプリントを行う。 ・答えを用意しておき, 答え合わせを各自で行う。</p>	<p>1. 課題を提示する。 ○一緒に問題を音読し, 問題場面を理解する。 ④水とカルピスの原液を使って, ジュースを6人分作ります。水と原液を, それぞれ何カップ用意したらよいでしょうか。 ○実際に1人分のカルピスを薄める作業を見せ, 同じカップを使うこと, それぞれの分量を混ぜてジュースを作ることを確認する。 ◇1人分の水: ジュースの原液の比=5:1であることをおさえておく。 ◇6人分の水と原液の量を求めるためにはどうしたらいいか既習事項を活かして, めあてに繋げる。</p>	<p>1. 課題を提示する。 ○一緒に問題を音読し, 問題場面を理解する。 ④水とカルピスの原液を使って, ジュースを6人分作ります。水と原液を, それぞれ何カップ用意したらよいでしょうか。 ○実際に1人分のカルピスを薄める作業を見せ, 同じカップを使うこと, それぞれの分量を混ぜてジュースを作ることを確認する。 ◇1人分の水: ジュースの原液の比=5:1であることをおさえておく。 ◇6人分の水と原液の量を求めるためにはどうしたらいいか既習事項を活かして, めあてに繋げる。</p>
13:27			<p>1. 課題を提示する。 ○一緒に音読し, 本時ではパーティーの買い出しをすることを確認する。 ○実際に近所のスーパーで売られているお菓子の値段であることを伝える。 ○170円のせんべい, 160円のいもけんぴ, 240円のパイ, 100円のサブレ, 140円のクッキーの中から, 事前にどのお菓子がいいのか選んでおいたA児B児のお菓子を買に行く問題であることを伝える。</p>		<p>2 課題をつかむ。 め比を使って6人分の水と原液の量を求めよう。</p>

13:30

2. 課題を提示する。

- 実際に正方形にぴったり入っている円で作ったコースターを見せ、学習意欲を高める。
- 一緒に音読し、本時ではパーティーで使うコースターをコンパスを使って作ることを確認する。

㊦ パーティーで使うコースターを作ります。一辺の長さが8 cmの正方形の中に、ぴったり入る円をかきましょう。中心はどこになるでしょうか。

- ◇前時では、正方形にぴったり入る円において、正方形の一辺の長さの半分の長さで円の半径の長さが等しくなったことを振り返り、本時の問題の円の半径の大きさは4 cmであることをおさえる。



- ◇円の中心をどこにすればいいかわからないと、円がかけないことをおさえ、学習課題に繋げる。

3. 課題をつかむ。

㊦ 正方形にぴったり入る円の中心を見つけ方を考えよう。

- ◇どのような方法で正方形にぴったり入る円をかくのか、見通してを立たせる。

方法 ・半分に折る。マス目を使う。・コンパスを使う。

使う物 ・コンパス・定規・鉛筆

4 自力解決をする。

- ◇隙間がありぴったり入っていない円を見せることで、ぴったり入る円の意味を正しく捉える。

- ◇方眼の入った正方形を用いて、円の中心を見付ける。

- ・正方形の中心線を引いた正方形を用意し、ヒントカードとして配布する。
- ・(A 児) 方眼を数えて円の中心を見付ける。
- ・(B 児) 正方形を半分に2回折り、円の中心を見付ける。

13:39

る。

㊦ 500円持ってパーティーの買い出しに行きます。藤野くんは170円のせんべい、宮井くんは100円のサブレを買いました。残りは何円になるでしょうか。

- 問題をノートに写す。

2 課題をつかむ。

㊦ () を使って一つの式に表し、説明しよう。

- めあてをノートに書かす。

3 自力解決をする。

- 立式し、言葉の式に表す。

$$\cdot 500 - (170 + 100) = 230$$

- どのように考えて計算したか、自分の考えを書く。

- ◇わかっていることを用語カードを用いて整理させる。

(持っているお金) (せんべい代) (サブレ代) (おつり) (代金の合計)

4 集団解決をする。

- 自分の考えを書いたノートを見せ合い、話型を用いながら、ペアで考えを交流する。

- ペアでどのように考えたのかを説明し合う。

- ◇一つのまとまりとして先に計算するしるしは () を使うということ

- めあてをノートに書く。

3 自力解決をする。

①比を使って計算する。

- ◇比に関する既習事項の掲示を見ながら、比を使って計算させる。

$$\begin{array}{c} \text{水} \quad \text{原液} \quad \text{水} \quad \text{原液} \\ \cdot 5 : 1 = 30 : 6 \\ \times \text{人分} \end{array}$$

- ◇求めた数値が何を表しているのか、誤答が入っている選択肢 (水原液 炭酸 お茶) の中から選択させ穴埋めに埋めさせる。

- ・6人分のジュースは水が30カップ、原液が6カップになる。

ヒントカード $\times 6$

	1人分	→	6人分
水 (カップ)	5	→	30
原液 (カップ)	1	→	6

- ◇ヒントカードを使って確認をする。

②導いた答えが正しいのか、図の操作で確認する。

- ① 1人分の水と原液のカップの量、2人分の水と原液のカップの量・・・6人分の水と原液のカップの量を、図を動かして比を確認する。

- ②それぞれの比の値を確認。

- ③水と原液の量が人数分増えていることを確認する。

5 集団解決をする。

- 円を描いたものを見せ、作業をしながらペアで考えを交流する。
- 2人で考えを交流したものをういてもう一度円を描いたり、他の描き方はないか考えて描かせたりする。

13:44

○中心の見付け方を説明させる。

- 円の描き方を実際に操作をしながら説明させる。
- 児童がどのように考えて中心を見つけたか名前を付けさせる。

数える法

- ①正方形の一辺の長さ=円の直径の長さ。
- ②正方形の4つの辺に印をする。
- ③印から向かい合った辺の印に向かって直線を結ぶ。
- ④交わったところが円の中心。



折る折る法

- ①正方形をたてに半分に折って開く。
- ②横に半分に折る。
- ③2本の直線の交じった点が中心になる。



13:49

㊦ 正方形にぴったり入る円の中心を見付けるには、**数える法**、**折る折る法**がある。

- お互いのやり方で一辺の長さが8cmの正方形の中に、ぴったり入る円を描く。

6 評価問題をやる。

13:53

㊦ 一つの辺の長さが10cmの正方形にぴったり入る円をかくためには、中心はどこにかけばよいでしょうか。中心を見つけましょう。

- 一辺の長さが10cmの正方形を配布し、ぴったりに入る円の中心を見付けさせる。

☆ (A児) ヒントカードをもとに、中心を求めることができる。

振り返る。

- 式の数は何を表しているのか問いかけながら、言葉の式にまとめていく。

・「式は、 $500 - (170 + 100)$ になります。まず、() の中を先に計算して、**代金の合計**を求めます。 $170円 + 100円 = 270円$ です。次に500円から() を引きます。 $500円 - 270円 = 230円$ です。

$$500 - (170 + 100) = 230$$

持っているお金 せんべい代 + サブレ代 おつり
代金の合計

- 本時のまとめを行う。

- 穴埋めにしたものに埋めさせる。

㊦ 持っているお金 - (買った物① + 買った物②) = おつり で、説明できる。

5 評価問題をやる。

㊦ 500円持ってパーティーの買い出しに行きます。内海君は140円のクッキーと小田君は240円のパイを買いました。残りは何円になるでしょうか。

- 立式し、答えを求める。

☆ (C児) () を使って残りの枚数を計算することができる。

☆ (D児) 1つの式に表して計算することができる。

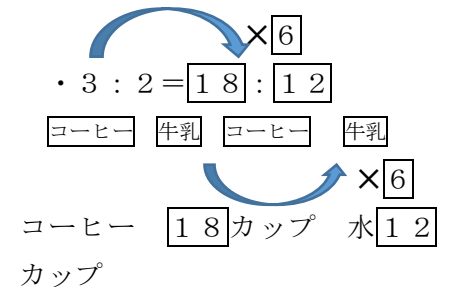
- 本時のまとめを行う。

- 比で考えたり図を動かしたりして確認し、1人分と6人分の比が等しくなることをおさえる。

㊦ 1人分の水や原液にそれぞれを**人数分**かけると同じ濃さになる。

7 評価問題をやる。

㊦ コーヒーと牛乳を混ぜてコーヒー牛乳を作ります。1人分はコーヒーと牛乳の比は3:2です。6人分では、それぞれ何カップですか。



☆ (E児) □に数字を入れることが

	<p>☆ (B 児) 円の半径を求め、正方形にぴったり入る円を描くことができる。</p>		<p>できる。</p>
<p>14:05</p>	<p>6 振り返りをする。 ○早くできた児童はノートに振り返りを書く。 ○本時の振り返りを発表する。(時間調整)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (A 児) 円の半径は正方形の一つの辺の半分の長さだということがわかった。 ・ (B 児) 円の中心を見付けるには半分に折って中心を見つけたらいいと気づいた。 	<p>6 振り返りをする。 ○早くできた児童はノートに振り返りを書く。 ○本時の振り返りを発表する。(時間調整)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (C 児) () を使うと、先にまとめて計算することができることがわかった。 ・ (D 児) 一つの式にするには、() を使うと速く計算できることがわかった。 	<p>8 振り返りをする。 ○早くできたらノートに振り返りを書く。 ○本時の振り返りを発表する。(時間調整)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (E 児) 比の値が同じなら、2つの比は同じということがわかった。